

令和 6 年度 あべの翔学高等学校 学校評価

I めざす学校像

1 人徳を経とし実務を緯とする

人徳と実務を兼ね備え、将来、社会で貢献できる生徒を育成することを建学の精神とし、「立志、礼節、誠実、勤勉」を校訓とする。

2 学力だけでなく「こころ」の面での成長を大切に、生活指導面での厳しくもきめ細やかな指導をとおして社会生活に適切に対応し、活躍できる教育活動を実践する。

II 中期的目標

1 学力向上

ベネッセ総合学力テスト偏差値 50 を達成する。

2 進路指導

生徒・保護者の希望、本人の実力を勘案して、適切な進路指導を行う。

3 生徒指導

基本的生活習慣の習得

4 生徒会・クラブ活動への積極的参加

生徒会、課外活動を通じ、勉学との両立を図りながら、秩序・リーダーシップ・協調性等のチームワークや人間関係の育成を図る。

III 本年度の取組内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力 向上	(1)基礎学力の向上	a 特進Ⅰ類、特進Ⅱ類の生徒を中心にベネッセ総合学力テストを受験し、各教科での偏差値向上、総合点での偏差値向上を目指す。	aベネッセ総合学力テスト偏差値 50 の達成	ベネッセ総合学力テストを受験し、自分のどの成績位置にいて不得意科目は何かを認識することから始める。また 3 年生に関しては、診断テストを受ける 11 月には約半数の生徒の進路が決定しているので、気の緩みから成績が下がっていると推測される。

【基礎力診断テスト偏差値】

	学年	国語		数学		英語	
		現 3 年生	現2年生	現 3 年生	現2年生	現 3 年生	現2年生
特進Ⅰ類	1 年	39.1	42.7	36.4	40.1	42.6	40.3
	2 年	40.8	38.9	41.5	53.5	45.7	41.7
	3 年	38.9		55.3		42.6	
特進Ⅱ類	1 年	40.5	35.7	35.8	37.7	40.1	39.1
	2 年	38.0	37.2	38.4	54.7	40.4	38.9
	3 年	34.7		—		35.1	
学年全体	1 年	32.7	39.2	36.1	38.9	40.7	39.7
	2 年	39.0	38.1	39.6	54.1	42.4	40.3
	3 年	35.8		55.3		36.8	
受験者数	1 年	24	40	24	40	24	40
	2 年	20	34	19	8	19	34
	3 年	11		1		13	

2 進路指導	(1)進路指導対策の早期実施	a 進路希望調査の早期開始、早期対策	a 四年制大学進学率向上	令和7年3月卒業生徒の大学合格数は以下のとおりである。(延べ人数) ・立命館大学 合格数 1 ・近畿大学 合格数 39(既卒生9含む) ・摂南大学 合格数 1 ・神戸学院大学 合格数 2 ・追手門学院大学 合格数 2 ・桃山学院大学 合格数 14					
	【進路結果】※令和7年3月末現在								
		進学者				就職者他			
		大学	短大	専門	小計	就職	その他	小計	合計
	卒業生	92	10	54	156	24	9	33	189
構成比(%)	49	5	29	83	13	4	17	100	
前年度構成比	47	8	29	84	10	6	16	100	
3 生徒指導	(1)基本的生活指導の習得	a 遅刻指導強化期間の設定 b 服装、身嗜み指導の徹底	a 遅刻回数の削減に努める b 通学路立ち番指導 100%	遅刻回数の学年別・年次別回数は左記のとおりである。 2年生、3年生では平均1人年9回遅刻していることになる。学年別遅刻回数分布をみると年6回以上遅刻している生徒の比率が1年生25%、2年生46%、3年生49%と1年生から2年生にあがると20%以上増加している。 遅刻回数と退学、転学結果との関係进行分析し、1年生のうちに生活改善を指導し、転退学者の防止に努める。					
	【学年別・年次別遅刻回数】			【学年別遅刻回数分析】					
	回/人年	1年次	2年次	3年次	%	1年生	2年生	3年生	
	3年生	7.4	10.8	9.4	0回	35	20	25	
	2年生	9.4	9.6	-	1回	10	10	7	
1年生	6.4	-	-	2~5回	30	24	19		
				6~10回	20	15	14		
				11回超	5	31	35		
				人数	343	313	189		
4 生徒会・クラブ活動	(1)クラブ活動の活性化	a 運動部、文化部の大会成績向上 b クラブ活動をととした人間形成と自己啓発の実施	a クラブ参加率の向上 b 市大会、府大会等での成績向上	(1)大会成績だけを目指すのではなく、大会運営ボランティアを行うなど地域社会への貢献を実体験した。 ■第17回学童軟式野球全国大会ポップアスリートカップ星野仙一旗争奪(12月9日・10日開催)に軟式野球部、チアダンス部が参加した。 (2)今年度は軟式野球部以外でも活躍があった。陸上競技部の女子砲丸投げにおいては大阪インターハイで4位入賞し、近畿インターハイに出場することができた					
	【主なクラブ大会成績】								
	クラブ名	大会名		成績					
	軟式野球部	大阪私立高等学校総合体育大会		優勝					
	陸上競技部	大阪インターハイ女子砲丸投げ		4位					
近畿インターハイ女子砲丸投げ		15位							
男子ソフトテニス部	第79回大阪高等学校総合体育大会		3位						

IV 総合評価

評価	自己評価	次年度の改善方針
B	現3年生へのきめ細かな学習指導、受験対策を行った結果、近畿大学へ延べ人数39を上げることができた。 また、IT教育環境の充実、クラブ活動での活躍もあり、令和6年度入学者は368名となっているが、一方で転退学者の割合は全学年で4.6%に達しており、原因分析と対策が早急な課題である。	教育環境の充実と共に、教育内容においても生徒の関心、やる気を引き出すことが出来るコンテンツを導入して行く必要がある。 途中退学者数の低減を図るため、出席日数不足の生徒に対して先手の個別指導を行って行く所存である。

V 学校関係者評価

今年度の重点目標	学校関係者評価委員会意見	次年度の改善方策
学力向上	・Ⅰ類、Ⅱ類以外のデータがないので、全体的な判断はできないが、個人差がかなり大きいと思う。 ・学校全体の学力向上意識を高めた文化を築き、学力向上に向けた意欲を生徒全体で共有しなければ、学力の低い生徒が大学進学を望むことが難しくなり、結果的に進学率を下げてしまう。 ・基礎学力が向上すれば、偏差値も向上するはず。 ・教員の指導力や教材の内容、個別指導や学力環境の整備も学力向上に大切であり、重要と思う。 ・特進クラス以外の学力向上が課題。一方3年生の進路決定後の学習意欲低下については、継続的なサポートが必要。	・生徒が自分の進歩を実感できるようなポジティブなフィードバックを行い、モチベーションを高める。 ・1年生の基礎学力向上、早い段階での基礎固めを行うことで、2,3年時の伸びが期待できる。 ・学校全体の学力向上のためには、特進クラス以外の基礎学力向上にも重点を置き、全体の底上げを図る必要があるのではないか。そのためには生徒一人ひとりの課題に合わせた指導がとても有効になってくる。具体的には苦手科目ごとの補習や個別指導の充実、3年生については進路決定後のモチベーションを維持するための取り組みが必要。
進路指導	・大学進学率や具体的な進学実績が明確に示されていて参考になった。しかし、就職希望者への対応や進路未決定者への指導内容が資料で詳しく触れられていないため、幅広い進路支援が必要と思う。 ・情報提供の充実や個別相談の実施が重要。また、生徒の興味を引き出す活動が効果的だと思われる。保護者との連携も強化すべき。 ・本人の希望と今の学力なら、〇〇大学とか、わかりやすく指導したらどうか。目標があるのなら、どの学部が良いかなど明確に教えてあげる。 ・大学進学率を向上させるには、早期の進路意識向上・学習支援の強化・専門志願者への大学併願推奨が大きく係ると思う。より多くの生徒が四年制大学への進学が選択できるように進学の可能性を広げるよう、受験スケジュールを生徒毎に作成し、定期的な個別面談、学力サポートを実施し、四年制大学進学へのモチベーションを期待。	・進路指導では、生徒の個性や希望をより広く反映できるように、多様な進路選択肢の提示が重要ではないか。具体的には、進学・就職のどちらにも対応できる進路相談の機会(多彩な分野の情報提供やOB,OGを招いた相談会など)、企業見学やインターンシップを通じたキャリア教育を推進し、生徒がより具体的な進路を描けるようなサポートの機会を増やしてみたい。また、保護者も含めた説明会や個人相談の充実も効果的だと思う。 ・生徒のニーズを聞き、個別相談を増やし、進路情報の提供の見直し、職業体験の提供もあると良い。 ・どうしてもいまいち分かっていない生徒が大多数を占めるので、教示する。 ・進路希望調査の早期実施と志望校の明確化。必要な学習支援を明確化し、計画的に実施、将来を見える化する。 ・模試、対策講座の強化。
生徒指導	・遅刻回数は学年が上がるにつれて増加している点が少し気になる。特に1年生の段階での生活習慣の定着が充分でないことが、その後の遅刻増加につながっている1つの原因ではないかと感じた。 ・遅刻指導強化期間を設定することは、生徒の時間管理や規律を向上させるために重要だと考える。このような取り組みを通じて、生徒が時間を守る意識を高め、学校生活全体の充実を図ることが期待できる。	・早い段階での生活習慣改善が重要と思うので、1年生のうちに遅刻や生活態度について重点的に指導いただけると、学年が上がってからのトラブルも減るのではないか。また、個別指導の強化に加え、保護者との情報共有や連携を深めることで、退学防止にもつながるのでは。 ・なぜ遅刻が多いのか生徒や保護者に聞き取り、個別のアドバイスや支援を行う。家庭でのサポートを促すなど協力を求める。

生徒指導	・1年生から生活習慣の大切さを知って欲しい。規則正しい生活は集中力を高め、将来の基盤となる時間管理能力・責任感・信用につながる。制服をきちんと着用してほしい。メイク・ピアス・カラコンは、制服に合わない。マナーを身に付けてほしい。	・登校しようという意思が必要なので、家庭でも遅刻・欠席をしないように言ってもらおう。 ・生徒の生活習慣を把握し、家庭と共有。
生徒会・クラブ活動	・クラブ活動の活性化を目的として、市大会、府大会での成績向上を目指しつつ、成績だけではなくボランティア活動を行うなど地域社会への貢献を意識し、社会性や人格の成長、チームワークの大切さを習慣化させる仕組み作りをして、成長をサポートしていると思った。失敗や挫折を成長の糧とし、ポジティブなフィードバックを重視し、メンタル強化につなげている。 ・地域社会に貢献するボランティア活動、素晴らしい取り組みだと思う。 ・生徒会、クラブ活動は、生徒にとって人間形成や自己啓発を促進する重要な場である。単なる趣味や娯楽に留まらず、生徒の人間形成に大きな影響を与える。これらの経験は、将来の社会生活やキャリアにおいても重要な基盤となる。 ・クラブ活動が活発で大会での成果や地域貢献活動の取り組みが見られる点に感銘を受けた。一方で全体のクラブ加入率や活動についてまだ改善の余地があるのでは。	・より多くの生徒がクラブ活動へ参加できるように、初心者向けのサポートや学業との両立を図れるように方法の見直しが必要。 ・チームワーク強化、目標設定、挑戦の機会を増やすことが重要であり、成績向上だけでなく、協調性、責任感、自己成長、礼節を実感できる環境を整えることで、生徒が主体的に成長できるクラブ活動になると思う。 ・ボランティア活動を来年度も引き続き行う。 ・活動をより充実させ、メンバー間のコミュニケーションの強化、メンバーの参加意欲を高め、モチベーションの向上などメンバーが成長するための有意義な場となるような環境を整えることが重要。 ・クラブ活動加入率向上のために、クラブ紹介イベントの充実や、スポーツ以外の文科系活動や地域貢献活動を増やすことで様々な興味を持つ生徒が参加しやすくなると思う。リーダーシップの場を設け、生徒会やクラブリーダーを支援する取り組みも効果的だと考える。
総合評価	・きめ細やかな指導、受験対策の結果に素晴らしい効果がでていることに評価すべき。入学者の増加の一方で、転退学者の割合が気になる。 ・生徒たちはこれをする為には、これをするという事がわかりにくいと思う。 ・全体として、生徒の成長や進路達成に向けた取り組みがしっかりと行われていると感じる。しかし、遅刻や転退学の増加といった課題も見受けられ、学力・生活指導・進路支援といった点で更なる改善が必要だと感じる。	・メンタルサポート、個別対応、進路指導の強化など。学業支援だけでなく、生徒のメンタルヘルスも必要だと考える。生徒が安心して、学び続けられる環境を整えていただきたい。 ・細やかな指導も必要だが、自分で考えられるよう導くことも大事。 ・次年度に向けては、生徒・保護者とのコミュニケーションをより一層深め、生徒一人ひとりの状況に合わせた個別指導や保護者との連携強化に注力していただけるとありがたい。また教職員間の情報共有体制の整備を進めることで、よりきめ細かな対応が可能になるのでは。